

（仮題　ウチのサキュバスがご迷惑おかけしました！

ヒロイン　　　　　サキュバス　リン

想定人間年齢　　　17歳

間違えて、契約外の男の部屋に行ってしまった、

そこから物語が始まります）

【生意気だけど憎めない、かわいいドジっ子サキュバスちゃんです。

基本、高音、明るく元気なキャラでお願いします。

エッチなシーンは、状況をみて、小悪魔的に、色っぽくお願いします】

遅くなっちゃった！。

居るうー？　って、誰もいないな……。
居^いるうー？　って、誰もいないな……。

って、居た！

もう！　びっくりするなあ、急に出てくるんだもん……。

っていうか、あんた、誰……？

もしかして、変身してるの？

してない？

君は誰って？

あたし？ リンだよ。

10時に約束してたじゃない。っていうか、もう夜中の12時か……。

まあ、そんなこと、どうでもいいや。

えっ？ 人違いじゃないかって？

【← 低音で、格好つけた感じで】

無礼な。こう見えても、淫魔サキュバス族の端くれよ。^{はし}

人違いなどするはずが……。

【→ ここまで】

えっ？ 512号室？ 412号室じゃないの？

タハハハ。

間違えたー！

っていうか、部屋のカギ、ちゃんとかけてなかった君も悪いよね。

そうだよね。

まあ、わかればいいんだけどさ。

ねえ、喉、乾いちゃった。なにか飲み物、ある？

うん。いいよ。コーラで。

サンキュー。

ゴクゴク……。

あー、生き返ったあ。

しかし、言っちゃ悪いけど、むさ苦しい部屋だねえ。

412号室も、同じようなもんだけどさ。

布団、たまに干したほうがいいよ。なんだか、湿ってるし。

えっ？ あたし？

だから、サキュバスのリンだよ。

この外観見ればわかるでしょ。

今日はハロウィンじゃないよって？

もう。コスプレだと思ってんの？ 違うわよ。

この羽、普段はこの大きさだけど、飛ぶとき大きくなるんだよ。ほら。

ねっ。部屋いっぱい、こんなに広がるんだから。

何？ 最近のコスプレは、よく出来てるなあ、って？

【←怒った感じの、キーっ！ です】

キー！

【→ ここまで】

君、うたがい深さ、偏差値80だね。

この堅物を、どう信じさせたらいいものか……。

そうだ。この、しっぽなんてどう？

人間に、こんなの、ついてないでしょう？

ほら、動くよ、こんなに動いちゃうんだよ。

プレイのとき、大活躍するんだから。

どお？ ワクワクするでしょ。

ゾクゾクするでしょ？

これで、おちんちん、ツンツンしちゃうぞ！

もう、どうして避けるのよ。

JK相手に、そんなことしたら、淫行になるって？

えーっ。そんなの、なるはずないじゃん。

見かけはJKかもしれないけど、なんならあたし、200歳超えてるから。

年上は、敬^{うやま}うものよ。

コーラ飲んだら帰ってくれって？

帰らないわよ。

せっかく来たんだから、帰らないよっ！

契約書にサイン書いてもらうまで、帰りませんっ！

なんだ、新手の押し売りかって？

【←怒った感じの、ムキーっ！ です】

ムキーっ！

【→ ここまで】

君ねえ、淫魔サキュバス様を愚弄するとは、

時が時なら……。

あつ、ごめん。興奮してコーラの缶、握り潰しちゃった。

えっ？ これってスチール缶なの？ それって、硬いの？

よくわからないけど、あたしの握力、軽く500はあるからね。

人間界にあるものは、華奢なもんばかりで、まったく、気遣^{つか}うわ。

もう、そんなに、びっくりしないでよ。

君には、ちゃんと優しくするから、安心して。

ほんとにサキュバスなんだ、って？

やっと信じてくれた？

そうだよ。サキュバス、サキュバス。

正真正銘のサキュバス。大事なことから、3回言ったよ。

やっと昇格したばかりの新人だけどね……。

というわけで、契約しましょ。

あたしと契りを交わすかわりに、その代償をもらう契約。

お金なんかないって？

そんな下賤なもの、このあたしが求めるはずないでしょ。

あたしが求めるのは、君の精液と、寿命三日分ね。

これって、正直言って、大バーゲンだよ。

位の高いサキュバスなんて、一回で寿命一年分も取っちゃう子もいるんだから。

見たところ、君の寿命は、九十年はあるわね。

寿命なんて、ちよつとしたストレスで三日ぐらいすぐ減っちゃうんだから、

どれだけお得か、わかるでしょ？

どお？ その気になってきた？

っていうか、もうなってるよね。

前の部分、もっこりしてるよ。

この部屋、あたしの匂い、すっかり充満してきたしね。

すごく、いい匂いでしょう？

わたしのあそこ、いつも濡れっぱなしだから、その匂いだよ。

この匂いって、人間でいえば、思春期の女の子のフェロモンを濃縮して、

それに、汗とおしつこと麝香じやこうの香りを混ぜた匂いなんだって。

この匂いを嗅いだけで、精液、お漏らししちゃった子もいるんだよ。

フッフっ……。

どれ、見せてごらん。君のペニス。

恥ずかしがらなくて、いいの。

ほら、パンツ、下ろして……。

あれー。君も、お漏らし、しちゃったのー。

パンツに白いヌルヌルしたの、ついちゃってるじゃない。

もう、しょうがないな。

もったいないから、ちょっと、おちんちん、啜えちゃうね。

【 ← おいしそうに吸ってる音でお願いします 】

はむっ、じゅ、じゅるじゅる、チュー、チュー。

【 → ここまで 】

はあ、はあ……。

君の精液、すごく、濃いよー。

この調子なら、あと2発は、いけるかな。

フフフっ……。

さあ、全部、脱いで。あたしも、脱ぐから。

もう……。

女の子が脱いでるとこ、そんなに、まじまじ見ないでよ。

えっ？ 本当に、200歳超えてるのかって？

本物のJKみたい、って？

まあ、サキュバスって、千年以上、現役って子もいるからね。

あたしは、まだまだヒョッコだから、

人間の歳でいったら、まあ、JKぐらいなのかなあ。

って、そんなこと、どうでもいいや。

全部、脱いだね。

ちゃんと、真っ直ぐ、立ってごらん。

おちんちん、ビンビンだね。

さっき、お漏らししたばっかりなのに、

こんなにお腹なかにつくまで、勃起しちゃって。

フフフっ……。

いやだ。そんなに、あたしのおっぱい、見ないでよ。

まあ、見ちゃうのも、しょうがないか。

あたし、おっぱいの形には、ちょっと自信あるんだ。

おっぱいって、大きさだけじゃなくて、大事なのは、張りとか、角度じゃない？

君も、そう思うでしょ？

肌も白くて、スベスベだよ。

乳輪もピンクだし、乳首も、ツンツンと尖ってて……。

って、自分で言ってる、興奮してきちゃった……。

エッチなお汁、太ももまで垂れちゃったよ。ほら……。

見たい？

あたしの、あそこ……。

フフフ……。

どうしようかな。

その前に、もう少し、君のからだで遊ばせてもらってからかな。

そこに寝てみて。

そう。いい子ね。

あたし、こうやって、上から見下ろすのって、好きなんだよね。

男の子の表情が、なんだか怯えてるっていうか、何されるんだろうって、

オドオドしてる感じが、すごく好きなんだよね。

フフフっ……。

見えてきたぞ。君、ズバリ、足フェチでしょ。

足で、いろんなところ踏まれたり、スリスリされたりしたいんですよ。

かわいい女の子の蒸れたつま先、チュパチュパ舐めまわしたり

そんなこと、したいんですよ。

変態さんだね。

では、その夢、このサキュバス、リンさまが叶えて差し上げましょう。

あたし、変態さん、大好物だしね。

フフフっ……。

さーと。どこを、もてあそ弄んでほしいのかなあ？

乳首なんか、どお？

ほら。ここだよ。この、ツンツて勃起しちゃったところ。

フフフっ……。

エッチな声、出ちゃったね。

やっぱりここ、感じるんだ……。

敏感乳首。こうやって、つま先で、挟んじやったりして……。

フフフっ……。

声、止まらなくなっちゃったねえ。

あたしね、足の指、すぐく器用に動くんだよ。

ほら、こんなふうに乳首つまんで、クリクリ、グリグリ。

アハハッ！

おちんちん、ビック、ビクじゃない。

ほんとに好きなんだね。こういうの。

指で、挟んで、クリクリして、つま先、こすりつけて、

クリクリして……。

乳首、すぐく充血してるよ。

もう……。女の子みたい。

こっちの乳首も、ほら、どお？

唾、垂らして、もっとヌルヌルっていうのはどうかな。

ん、ん、んっ……。

はあ……。

フフフっ……。

いやらしいね。

乳首、あたしの唾液にまみれて、ヌメヌメって光ってるよ。

塗りたいくって欲しいんでしょ。こうやって、足で……。

気持ちいいの？

ああ……。

あたしまで、感じてきちゃった……。

だって、すごく、いやらしいんだもん。

甘酸っぱい足の匂いと、唾液の匂いが、混じり合って、

ああ……。いやらしい……。

興奮しちゃうよね。感じちゃうよね。

匂いで、イツちゃいそうでしょう？

ほらあ、クチュクチュ鳴ってるよ。

足を、速く動かしたら、ほら、こんなに、クチュクチュって。

足、舐めたいの？

いいよ。

ほら、舐めて。指のまたまで、ちゃんと、きれいに舐めるのよ。

おいしいの？

君、ほんと、おいしそうに舐めてくれるね。

もう、好きになっちゃうよ。

ああ……。

気持ちいい……。

あたし、足の指のあいだ、感じちゃうの……。

ああ……。小指のすきま、そこ舐められると、

なんだか切なくなっちゃう……。

はうん……。はあ、はあ、感じちゃう……。

もっと舐めて……。

でも、ああ……。だめ……。

それ以上舐められたら、あたし、立っていられなくなっちゃう……。

君のおちんちん、踏んであげなきゃね……。

こういうの、どうかな？

足の裏、竿に乗せて、つま先で、亀頭を、コチヨコチヨ。

ほーら。気持ちいいでしょ。

唾液、垂らしてあげるね。

ん……。んん、んんっ……。

はあ……。

あーあ。おちんちん、ヌルヌルになっちゃった。

ほうら、足、動かしたら……。

ぬーる、ぬーる……。

うわあ、亀頭、ヌメヌメ光って、いやらしい。

すごく硬いよ。

踏んでも、ほら、跳ね返してくる。

裏筋とか、どうかな？

ここを、親指の先で、フニフニしたり……。

わあ、亀頭、パンパンだよ。

全身、そんなに力入れちゃってえ。

なにプルプルしてるの？

どうして、そんなに汗かいてるの？

泣いたって、許してあげないよ。

ほら、こうやって、足、小刻みに動かすってのは、どうかな？

電気アンマだよ。ほら。ほら。ほら。

えっ？ イツちゃいそうなの？

あっ、すごく硬い！

まだイツちゃ、だめだよ。

まだ、あっ！ ああっ！

ピュピュって……。

あーあ。イツちゃった……。

まあ、あたしの足でしごかれたんだから、しょうないか。

ちょっと待ってね。おちんちん、吸わせて……。

【 ← おいしそうに吸ってる音 】

チュルチュル、ジュル、チュウチュウ……。

【 → ここまで 】

はあ、おいしい……。

まわりに飛び散っちゃったのも、ナメナメさせてね。

【 ←ペロペロは、舐めてる音でお願いします 】

ペロペロ、ペロペロ。

お腹も、胸、も……。

ペロペロ、ペロペロ。

ペロペロ、ペロペロ……。

【 → ここまで 】

はあはあ……。

こうやって、抱き合うってのも、いいね。

君の胸と、あたしのおっぱい、密着して……。

あったかいよ……。

こうやって、見つめ合っていると、なんだか恋人同士みたいだね。

フフフっ……。

あたしの目、見て……。

吸い込まれちゃうそう？

君の瞳に、あたしが映ってるよ。

かわいいけど、いやらしい顔だね。あたしって……。

キスして、あげる……。

ん、ん……。う、うつ、んん、んん……。

そういえば、これが、君との初キスだね……？

いっぱい、激しいこと、しちゃったのに。

フフフっ……。

どお？ キスの味は……。

とろけちゃうそう？

えっ？ キス、初体験なの？

あたしが、はじめての人？

うれしいな。でも、あたし、人間じゃなくて、悪魔だけだね。

フフフっ……。

もっと、気持ちよくしてあげるよ。

情熱的なキスは、好き？

こういうの……。

【 ← ディープキス音 】

ん、ん……。クチュ、クチュ、う、うつ、

ジュ、ジュルジュル、ハアン、んん、んん……。

あたしの舌で、君の中、犯してあげる……。

ん、ん……。クチュ、クチュ、う、うつ、

ジュ、ジュルジュル、ハアン、んん、んん……。

【 → ここまで 】

はあ、はあ……。

あたしの唾液、もっと、飲んで……。

すぐに、飲み込んだじゃ、ダメだよ……。

ゆっくり、お口の中で、転がしてから、だよ……。

フフフ……。

甘いでしょう？ とろけちゃうでしょ……。

あたしの唾液、媚薬だから……。

あたしの唾液、君のからだの中に入って、血液で運ばれて……。

感じるでしょう？ あたしのフェロモンが、

君の全身の細胞のひとつひとつに、しみ渡っていくんだよ。

ほら、もっと飲んで……。

あたしの唾液。

君はもう、あたしのこと、忘れられないよ。

君のからだは、あたしじゃなきゃ、もう満足できないよ。

【 ← いやらしく、舌を動かす感じで 】

チュツ、ちゅぱ、ちゅぱ、じゅる、じゅる……。

【 → ここまで 】

どお？ あたしの舌。君の口の中、犯してるんだよ……。

気持ちいいでしょう？

あたし、舌、長いから。

あたし、おっぱいも自慢だけど、舌の長さも、自慢なんだ。

フフフっ……。

この舌で、君のからだ、もっと犯してあげようか。

首筋から、乳首……。

唾液の軌跡を残して……。

おへそを舐めて……。

ああ……。

おちんちん、もうこんなに勃ってる。

血管が浮き出て、亀頭、パンパンに張っちゃって、

男臭い匂いムンムン発して、先端から、涙、流して……。

【 ← いやらしく、吸ってる音 】

じゅるじゅる……。

ああ……。おいしい……。

じゅるじゅる……。じゅるじゅる……。

【 → ここまで 】

あたしの舌、気持ちいいでしょ？

亀頭にグルグル巻きついて、こんなふうにニユルニユルすることも

できるんだよ。

ほら……。

【 ← 触手がからみついてネチヨネチヨする音 】

チュルチュル、チュルチュル、ずずつ、ネチヨ、チュルチュル。

【 → ここまで 】

ねっ。サキュバス リンの、奥義その一。

亀頭舐めまわし大蛇地獄。

すごいでしょ。

気持ちよすぎて、亀頭、とろけちゃいそうでしょ。

でも、まだ、イッちゃ、ダメだよ。

我慢汁、もっと、いっぱい出してごらん。

あたし、この味も、好きなんだ。

ほら、こうして、おしっこの穴も、ニユルニユルって……。

あつ、イッちゃいそう。イッちゃいそうなの？

残念でした、まだイカせませーん。

フフフっ……。

わあ、我慢汁、いっぱい出てきた。

【 ← 触手がからみついてネチヨネチヨする音 】

チュルチュル、チュルチュル、ずずっ、ネチヨ、チュルチュル。

【 → ここまで 】

はあ、おいしい……。

どうしたの？ 切ない顔して。

イキたいの？

そうなんだ。イキたいんだ。

でも、まだダメなんだなあ。

ほら、口開けて。あたしの唾液あげるから、もう少し、我慢しなさい。

フフフっ……。

君ってさあ、やっぱり、Mだね。

えっ？ 違うの？

そうかなあ。

じゃあさ、君がほんとにMじゃないかどうか、試してみようか。

君、アナル、感じるかな。Mじゃないなら、アナルなんて、

感じないはずだね。

フフフっ……。

ほら、足、広げてごらん。

逆らわないで。もっと大きく広げるの。

ここ、君の、お尻の穴。フフフっ……。触っちゃったよ。

なにびっくりした顔してるの？

指じゃないよ。

これ、あたしのしっぽ。

さっき見たでしょう？ あたし、しっぽも自由に動かせるからね。

それに、先っぽ、自由に形を変えることもできるんだよ。

ほら、先っぽ尖らせて、アナル、ツンツンしたら、

入っちゃいそうでしょ？

フフフっ……。

大丈夫。痛くないから。

わかる？ ヌルヌルしてるの。

しっぽの先から、あたしの愛液、出てるんだよ。

ほら、もう、ヌルヌル……。

ちよっと、押し込んだだけで……。

あっ、入っちゃうよ……。

君、アナル、はじめて？

そっか。じゃあ、処女喪失だね。

ほら、入っちゃうよ。

あっ、先端、締めつけてる。

あっ、気持ちいい……。

あたしのしっぽ、アンテナみたいに、敏感なの……。

あっ、感じちゃう。

あっ、お尻の穴、あたしのしっぽ、締めつけてる。

君も、感じるでしょ。

ほら……。

入り口、ゆっくり、もみほぐして……。

あたしの、愛液、中にも、外にも、いっぱい、垂らして……。

ほうら。やわらかくなってきたよ。

こんなふうに、出し入れしても……。

もう、痛くないでしょう？

ほら、ここ、君の前立腺……。

ここを、グリグリしたら……。

どうしたの？ 涙ぐんじやって。

そんなかわいい顔したって、許してあげないよ。

前立腺って、精子を作る場所なんだよ。そこを内側から、グリグリしたら、

フフフ……。

なんか、出てきそうな感じがするでしょ？

ほら、どう？ こんなふうに、出し入れしたら。

ダメだよ。泣き声出したって、やめないよ。

おかしくなりそう？

やめて欲しいの？

どうしようかな。

だったら、おちんちんの先から潮吹いたら、許してあげる。

潮、吹いたことないの？

そうなんだ。

じゃあ、初体験させてあげるよ。

ディープキスしながら、前立腺をお尻の中から責め立てる、

サキュバス、リンの、奥義その二。

秘儀、ぜんりつせんせつさたくま前立腺切磋琢磨つ。

【 ← 触手がからみついてネチヨネチヨする音 】

チュルチュル、チュルチュル、ずずつ、ネチヨ、チュルチュル。

【 → ここまで 】

すごい、中がウネウネ波打ってるよ。

お尻の穴が、キュッキュツて締まって……。

女の子みたいだよ。君のここ。

そうだ。女の子になっちゃいなよ。

ほら、もっとあえいでごらん。

どお？ おまんこ、奥まで犯されちゃってるよ。

あたしのおちんちんに、こんなにピストンされてるよ。

いやらしいおまんこ……。こんなにグチヨグチヨにしちゃって……。

ああ、かわいい……。

ほら、もっと口開けて。あたしの唾液、いっぱい、飲んで……。

【 ← ディープキス音 】

チュルチュル、クチュクチュ、ずずつ、ネチヨネチヨ、チュルチュル。
チュルチュル、ジュツ、ジュツ、ジュパジュパ、ジュールジュール……。

【 → ここまで 】

あつ、先っぽから、ピュッて出たよ。

ああ……。やらしい……。

潮吹いちゃったの？

あつ、また、ピュピュッて。

潮吹くところ、お顔、見せて。

ちゃんと、あたしの目を見るんだよ。

ああ……。切なそうな顔しちゃって……。

イクときの、女の子の顔だよ。

ほら、もっと前立腺、こすってあげる。

ほら、気持ちいいね……。

クリトリス、ヒクヒクしてるよ。

イツちゃうの？

だったら、あたし、イツちゃうーって、言ってごらん。

そう。かわいいよ。もっと、声出して。

あたしも、イツちゃいそう。

あつ、あつ……。

しっぽの先から、あつ、あつ、出ちゃうつ、出ちゃう、

リン、エッチなお汁、ピュッピュしちゃうっー！

【この辺から、ラストに向かいますので、少しづつボルテージを

上げて、サキユバス、リンちゃんに絶頂を迎えさせてあげてください】

はあはあ……。

あたしも君の中に、発射しちゃった……。

でも、すごい潮吹きだったね。

やっぱり君、Mの才能あるよ。M男の正統伝承者だよ。

フフフ……。

じゃあ、そろそろ、舐めさせてあげようかな。あたしのあそこ。

うれしそうな顔、しちやってえー。

目、キラキラじゃん。いまどき少女漫画だって、

そんなにキラキラしてないよ。

どんなポーズで、舐めてもらおうかなあ。

正常位がいいかな。後背位がいいかな。

なんて言いながら、君の顔の上、またいじやった。

見える？

見えるよね。こんなに近いんだもん。

きれい？

そうでしょ。あたし、からだの中で、実は、おまんこが一番自信あるんだ。

真珠みたいなピンク色でしょ。小陰唇も、薄いフリルみたいで、

きれいでしょう。

匂いは、すごくいやらしいけど……。

フフフっ……。

ああっ……。見られてるだけで、垂れてきちゃう……。

ぱっくり開いてるから、恥ずかしいな……。

そりゃ、あたしだって、恥ずかしいよ。

だって……、サキュバスだって、女の子なんだよ。

こんなかつこうで、おまんこ、じっと見られたら、恥ずかしいよ。
でも、感じちゃうんだよね……。

それにさ、君の視線、すごく、熱いんだもん……。

ねえ、早く、舐めてよ……。

見つめられてるだけなんて、あたし、変になっちゃうよ……。

そう……。そこ、あつ、あつ、

き、気持ちいいっ——！

お口つけて、ちゃんと、吸って……。

あたしの花びら、プルプルしてっ！

ああ……。

気持ちいい……！

どお？ リンのお汁の味。

あったかくて、ヌメヌメしてて、フルーティーで、

少し、おしっこの匂いがして、すごくおいしい？

よかったね。全部、飲んでいいよ。

どんどん、あふれてきちゃうから……。

ああっ……。

いやらしい匂い……。

あたし、いつもより感じちゃってる。

だって、止まらないんだもん。

トロトロって、中からあふれてきちゃうんだもん……。

君の顔、ビシヨビシヨだね……。

あたしの愛液にまみれて……。

愛^{いと}おいしいね、君……。

あっ………！

クリトリス、感じちゃうっ！

そこ、唇ではさんで！

もっと吸って！ 舌で、ペロペロして！ もっと強く。

そう、そうよ。

ああっ、クリトリス、すごく勃起してるの！

皮剥けて、むき出しになって、

あっ！ あっ！ そこ、そんなにしゃぶられたら、

感じちゃうってっ！

うぐっ、うぐっ、うっ、うっ……。

うっ、はうっ、はうっ、あうっ、

あっ、あっ、あっ、あ———！

はあ、はあ、はあ……。

ほら、わたし、イッちゃったじゃない……。

あその穴、ヒクヒクしちゃったじゃない……。

もう、あたしが先にイカせようと思ったのに……。

こうなったら、全部、搾りとっちゃうわよ。

君、騎乗位って、知ってるでしょ？

そう、女の子が上になって、ここに、こうやって……。

見て……。龟头の先、あたしの唇と、キスしてるよ。

どっちも、ヌルヌルだから、少し、腰を沈めただけで、

ほら、入っちゃう、あつ、入っちゃうつ、

ああっ……！

入っちゃった……。

はあ、はあ、はあ……。

感じる……？

あたしの中、ウネウネ、動いてるの……。

入口だって、ほら、おちんちん、キュキュって絞めたり、甘噛みしたり、

いろんなこと、できちゃうんだよ。

ああ……気持ちいい……。

亀頭の形が、あたしのサイズに、ぴったり、合ってる。

奥のヒダヒダが密着して、こすれちゃうの。

ああ、気持ちいい！

見える？ つながってるよ。よく見えちゃうよね。パイパンだもん。

ほら、出たり、入ったり……。

エッチな唇、しっかり、啜えこんでるでしょ？

ぱっくり、開いちゃってるでしょ？

すごくグチュグチュ鳴ってる。

ああ……。愛液出ちゃうー。おしっこも、ピュピュって出ちゃう。

だって、我慢できないんだもん。

だって、気持ちいいんだもん。

君も、気持ちいいでしょ？

乳首も触ってあげるね。

両方の乳首、指先で、クリクリって……。

そんなに悶えちゃって。

ダメだよ、おちんちん、暴れさせちゃあ。感じすぎちゃうからあ！

ねえ、あたしの乳首も触って……。

あたしの乳首も、勃起しちゃうってでしょ……。

ほら、こんなに尖っちゃってるんだよ。

もう……。リンをこんなに興奮させて……。

君って、悪いひとだね……。

ああっ！　ち、乳首、感じるっー！

そう！　つまんで、クリクリっしてして！

ああっ！　感じちゃうっ！

あたしの中、ウネウネしちゃう！

おちんちん、こすれてる！

気持ちいいっ！

あたし、サキュバスなのに……。

こんなに感じちゃって……。

【この辺からラストの盛り上がりとなります。

リンちゃんの絶叫を交えてお願いします】

ああっ、おちんちん、こすれてるっー！

ダメ、ダメ、イッちゃうから……。

本気でイッちゃうから、

あっ、あっ、こすれてる、亀頭、奥にあたってる、あっ、あっ、
すごい、ああっ！　ああっ！　もっと、もっとお！

ああ……こうなったら、見せてあげる。

サキュバスリンの、相打ち覚悟の最終奥義、

いんましようてん
淫魔昇天っ！！

どお！　この、おまんこの動きっ！

おちんちん締めつけて、千のミミズでウネウネするよ！

ほら、ほら、ほらっ――！！

イキなさいっ！

全部、放つの！

全部、あたしの中に、ぶちまけるの！

ああっ！　すごい！

おちんちんの動きに合わせて、

あたしの中、ウネウネしてるっ！

あっ、あっ、ああっ――！！

感じすぎちゃう！

この奥義、危険すぎっ！

ああっ、だめっ！

変になっちゃうっ！

リンのからだ、変になっちゃう！

あうーっ！

ああっ！ エツチなお汁、飛び散っちゃうう！

ああ！ だめ！ 止まらないの！

ああっ、ピュッピュしちゃう！

ああっ！

君も、ピュッピュして！

あたしの中に、ピュッピュして！

ああっ！

イクッ！

イクッ！

イっやう！

ああっ———！

リン、イツちゃうーっ！

【ここからは、ゆっくりとした、

愛らしく、やさしい口調でお願いします】

すごく気持ちよかったよ。

あたし、本気でイッちゃった……。

そういえばちゃんと契約かわすの、忘れてたっ！

まあ、いいか。気持ちよかったから。

あたしと会いたくなったら、また、いつでも呼んでね。

いつでも、君の精液、搾りにとってあげるから。

フフフっ……。

じゃあ、またね！

【おわり】

【どうもありがとうございました！】